中根千絵・森田貴之〈編〉

奈良絵本『太平記』の世界

永青文庫所蔵『絵入太平記』全挿絵影印ならびに研究

勉誠出版

奈良絵本『太平記』の世界

永青文庫所蔵『絵入太平記』は、軍記物語『太平記』全四〇巻および「剣巻」一巻の各巻を二冊ずつに分けた全八三冊（うち目録一冊）の奈良絵本である。『太平記』の奈良絵本として最大のものであり、さらには各冊に一〇枚前後の挿絵があり、全体で八〇〇枚近い挿絵点数を誇る。奈良絵本として最多であるのみならず、『太平記』のほとんどの章段について挿絵を持っており、『太平記』享受史においても類をみない規模の絵画資料である。本書では、これまで未公開であった稠密極彩色の美麗な挿絵の全点をフルカラー影印し公開。研究篇では、『太平記』の各段の梗概および挿絵の解説、主要版本との挿絵の対比を示した表を収載、さらには永青文庫蔵『絵入太平記』の歴史的位置づけを考察した解題を収めた。

定価 五五、〇〇〇円（税込）
［本体五〇、〇〇〇円（＋税）］
二〇二二年三月刊行
B5判上製函入二分冊（総六五六頁）
影印篇＝三九二頁・研究篇＝二六四頁
ISBN978-4-585-39007-7 C3091

〈本書の構成〉

影印篇

- ◆序言……中根千絵
- ◆影印篇凡例
- ◆各巻収載章段目録
- ◆永青文庫所蔵『絵入太平記』全挿絵影印　巻一～巻八十・剣巻（上・下）

研究篇

- ◆『太平記』梗概　附：「絵入太平記」挿絵簡注
- ◆解説……森田貴之
- ◆『絵入太平記』挿絵当該章段一覧表
- ◆あとがき……森田貴之

〈本書の特徴〉

- ◆挿絵の枚数、本文への高い理解など、群を抜いた逸品である『絵入太平記』の全挿絵（約八〇〇点）をフルカラーで再現。
- ◆挿絵化に際して、本文をいかに摘出・解釈したか。大名家における軍記物語の受容・再編のありようを考察できる資料として極めて有用。
- ◆研究篇では、挿絵化された場面を解説。さらに該当本文と対照し、検討。あわせて「太平記」諸本における各章段の挿絵情報を示した。
- ◆研究篇に、「太平記」諸本※における各章段の挿絵枚数をまとめた表を掲載。諸本ごとの享受の傾向を一覧できる。

※『絵入太平記』・無刊記整版本・元禄十年横本・元禄十一年横本・『太平記大全』・『太平記絵巻』

〈編者紹介〉

中根千絵……なかね・ちえ

一九六七年生まれ。愛知県立大学教授。博士（文学）。専門は中古・中世文学・説話文学。著書に『いくさの物語と諧謔の文学史』（三弥井書店、二〇一〇年）「武家の文物と源氏物語絵――尾張徳川家伝来品を起点として」（共編著、翰林書房、二〇一二年）、論文に「霊巌寺の妙見菩薩――日本の星信仰」（「天空の神話学」アジア遊学一二二、二〇〇九年）などがある。

森田貴之……もりた・たかゆき

一九七九年生まれ。南山大学人文学部准教授。専門は軍記文学、和漢比較文学。著書に『日本人と中国故事――変奏する知の世界』（小山順子・鳶清行共編、勉誠出版、二〇一七年）、論文に「『太平記』の禅学、宋学――遺偈と『孟子』と殷周説話と」（『軍記物語講座第三巻　平和の世は来るか　太平記』花鳥社、二〇一九年）などがある。

〈好評既刊〉

中根千絵・薄田大輔［編］

合戦図描かれた〈武〉

定価17,600円（本体16,000円）2021年12月刊行・B5判上製・416頁・978-4-585-32013-5 C3021

中世から近世における主要な合戦図38作品をフルカラーで紹介。合戦図の展開を解き明かす、多数の図版を盛り込んだ12本の論考を収載。これ一冊で「合戦図」をめぐる研究の最先端を知ることができる決定版。

注文書

奈良絵本『太平記』の世界
永青文庫所蔵『絵入太平記』全挿絵影印ならびに研究
中根千絵・森田貴之〈編〉

定価55,000円（税込）
本体50,000円（＋税）
2022年3月刊行・B5判上製函入二分冊（総656頁）・影印篇392頁・研究篇264頁
ISBN978-4-585-39007-7 C091

〈部数〉　部

〈貴店番線印〉

備考欄〈お届け先住所・氏名〉

勉誠出版

※ご記入いただいた個人情報は、ご注文書籍の発送、お支払確認などの連絡、ご希望いただいた方への刊行案内をお送りするために利用し、その目的以外では利用は致しません。

〒101-0061 千代田区神田三崎町2-18-4　TEL.03-5215-9021 FAX.03-5215-9025 Website=http://bensei.jp Email=info@bensei.jp

研究篇には、「『絵入太平記』挿絵当該章段一覧表」を収録。絵入り諸本を通覧し、巻ごと、章段ごとに絵画化の状況をまとめた。

諸本の章段ごとの挿絵点数を記載。調査した本は、左から『絵入太平記』・無刊記整版本・元禄十年横本・元禄十一年横本・『太平記大全』・『太平記絵巻』。

【絵入太平記　巻四（太平記巻二下）】

1．俊基誅せらるる事　并　助光が事

日野俊基は倒幕計画の首謀者として斬首に決まったが、その俊基の侍に後藤助光というものがいた。助光は、俊基が鎌倉に下ってからは北の方とともに嵯峨に暮らし、北の方の手紙を預かり鎌倉へ下った（図02-04-01）。

葛原岡の刑場で助光は、俊基を預かる工藤二郎左衛門尉に訴え（無刊本02-25）、俊基との対面を果たし、北の方の手紙を渡した（図02-04-02・無刊本02-26・元11本02-04）。俊基は、鬢の毛を切り、北の方への文を添え、助光に託した。俊基が処刑されると、助光は遺骨と形見の文を持ち、京へ戻り北の方に報告した後、高野山で俊基の菩提を弔った（図02-04-03）。

第02図は刑場で俊基と助光が対面する様子。大幕の内で敷皮に座す俊基の前に助光が持参した北の方の文が置かれている。

2．天下怪異の事

嘉暦二年（一三二七）に南都で、元弘元年（一三三一）に叡山で合戦沙汰があり、諸堂が焼失した。同年七月には大地震が繰り返し起こり（図02-04-04）、凶事の予兆と言われた。

八月、幕府の使者が三千の兵で上洛する（無刊本02-27）との知らせがあり、叡山の大塔宮のもとにも、後醍醐流罪、大塔宮死罪との報が伝わった（図02-04-05）。大塔宮は、後醍醐帝の奈良への遷幸を進言し、後醍醐帝は脱出を決め（無刊本02-28）、女房車で万里小路宣房・藤房とともに皇居を脱出し、牛車から輿に乗り換えるなどして（無刊本02-29）、七大寺詣での体で奈良へ向かい（図02-04-06）、奈良の東南院に入り（無刊本02-30）、その後、奈良の僧兵と共に笠置山へ入った。

第04図には大地震の様子が描かれ

第05図の叡山のもとに鎌倉側の決

京着して、いまだ文箱をも開かぬ先

解した可能性がある。

『太平記』巻区分	『絵入』巻区分	章段名
巻1	巻1	序
		後醍醐天皇御治世の事　付　武家繁昌の事
		関所停止の事
		立后の事　付　三位殿御局の事
		儲王の御事

『絵入太平

『絵入』	無刊記本	元禄10横本	元禄11横本	太平記大全	太平記絵巻	
×	×	×	×	×	×	
1(1)	2	1	2	1	○	
1(1)	2	×	×	2	○	
1(1)	2	1	1	1	○	
1	2	×	×	×	○	巻1

図10-19-10　稲村崎干潟となる事②（島津四郎、北条高時から馬を与えられて出陣するも、新田義貞に降伏する。）

図10-20-01　鎌倉兵火の事　付　長崎父子武勇の事①（長崎思元・為基父子は鎌倉で奮戦する。）

図10-19-08　赤橋相模守自害の事　付　本間自害の事（極楽寺坂で新田方の大館宗氏が鎌倉方の本間山城左衛門の郎党と差し違える。）

図10-19-09　稲村崎干潟となる事①（新田義貞、稲村ヶ崎で甲を脱ぎ、太刀を投じて祈誓する。）

章段の梗概を掲載。そのなかで挿絵化された場面の影印篇の図番号を示し、参照の助けとした。

章段名を示す。

挿絵に描かれた場面と、該当本文を詳細に検討。

『太平記』の享受史料として類を見ない、また奈良絵本作品としても他を圧倒する掲載点数を誇る約八〇〇点の挿絵をすべて収載。絢爛な彩色を忠実に再現した。

掲載した挿絵すべてに章段名と場面解説を附した。解説篇との相互参照が可能な図番号を付与した。